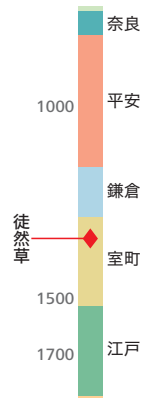


徒然草^{つれづれぐさ}

兼好法師^{けんかう}



ある人、弓射ることを習ふに

ある人、弓射ることを習ふに、¹諸矢をたばさみて的に向かふ。師のいはく、「初心の人、二つの矢を持つことなかれ。のちの矢を頼みて、初めの矢になほざりの心あり。毎度ただ²得失なく、この一矢^{ひとや}に定むべしと思へ。」と言ふ。わづかに二つの矢、師の前にて一つをおろかにせんと思はんや。³懈怠の心、自ら知らずといへども、師これを知る。この戒め、万事にわたるべし。

5

⁴道を学する人、夕べには朝あらんことを思ひ、朝には夕べあらんことを思ひて、重ねてねんごろに修^{しゆ}せんことを期す。いはんや一刹那⁵のうちににおいて、懈怠の心あることを知らんや。なんぞ、ただ今の一念において、ただちにすることのはなはだ難^{かた}き。

(第九二段)

¹ 諸矢 的に向かう時に作法として持つ、二本一組の矢。

² 得失 成功と失敗。ここでは当たるか当たらないかという迷いの心。

³ 懈怠の心 怠け心。

⁴ 道を学する人 仏道を修行する人。

⁵ 一刹那 ほんの一瞬という意味の仏教語。後出の「一念」も同じ。